

好きこそものの上手なれ

令和2年11月28日(土)15時から秋田市のアトリオン音楽ホールで、第19回秋田県高等学校芸術科教員発表会・音楽演奏会があり、本校教諭の出番もあり、昨年に引き続き会場に足を運びました。

「日ごろ生徒たちに音楽の魅力や技術を伝える指導者たちが、一人の芸術家として創造力やエネルギーを最大限発揮して作り上げたものは、生徒たちにとって何よりのメッセージになると思っただけです。」(後藤武之秋田県高教研芸術部会長あいさつより抜粋)

本校教諭のみならず、高校で教師として生徒の教育活動に携わっている指導者が、一人の芸術家として鑑賞し、聴く、観る、感じる、感動し、喜び、涙を流す。人生を豊かにする「涙」。人生を豊かにする「涙」。人生を豊かにする「涙」。

人生を豊かにする「涙」。人生を豊かにする「涙」。人生を豊かにする「涙」。

仁高生のみなさん、好きなことを徹底して極めてください。「好きこそものの上手なれ」です。音楽や美術、舞踊や料理、スポーツ等何でも結構です。「自分は、これが好き！」と言えることを見つけ磨き続けて欲しいと願います。

開かれた仁賀保高校を目指して！

仁賀保高校は、「社会に開かれた学校」を目指しています。「開かれた」とは、学校の校地外の方々に、学校の状況や様子を公開するということ。また、地域の大人をはじめとする知恵者に学校に来ていただき、様々な学びを提供してもらうこと。さらに、仁高生が校外に飛び出して、地域の方々の役にたつ行動を積極的に試みることもです。

情報メディア科では、小学生のプログラミング教育のお手伝いをしています。にかほ市教育員会の要請を受けて、市内の小学生に授業の一環として支援しています。その際、仁高生が「先生」、小学生が「生徒」という関係になります。「先生」として教える側の仁高生には、教えるために、もっと学ばなければという責任感が醸成されます。仁高では「生徒」として学んでいても、校外では「先生」として教える側に立つ経験を通して、仁高生が学びに向かう意欲と態度、さらには使命感を高めて欲しいと思っています。

メディア科の生徒の実践がきっかけとなり、令和3年は「教えることを通して学ぶ」仁高の教育活動が、他も場面でも沢山見られることを期待しています。

- ★ **アイコンタクト (i c o n t a c t 2)** を心がけてください。目と目で通じ合い、face to face で向き合いながら、「考えながら行動する」笑顔の素敵な人間たれ！
- ★ **メモ**をとる習慣を確立しましょう。生徒手帳をフル活用してください。メモをとる習慣は、将来必ず役に立ちます。
- ★ **意識力** = 意思・意志 (瞬間) + 気力 (持続) です。意識力を育成することで、学ぶ力が増幅します。考えたことを継続してやり抜きましょう。
- ★ **G T H** は、「疑問→探究→発見」という学びの方程式です。
- ★ **「自己有用感」**を高めてください。そのためにあなたはなに挑戦しますか？自分が誰かの役にたつためには、**感謝**の心と**自己肯定感**を持つことが大切です！
- ★ **N P T** は仁賀保高校プログラミング思考の略称です。N P Tを意識して、学びを活性化しましょう。プログラミングは、**Trial&Error**で進めましょう！